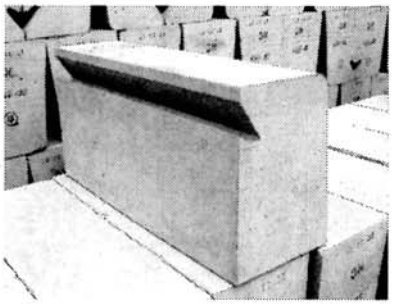
第40回環境賞　防草ブロックが優良賞

植物の特性生かす

全国防草ブロック工業会の防草ブロック技術が第40回環境賞の優良賞を受賞した。環境賞とは、環境保全に関する調査、研究、開発、実践活動で画期的な成果を上げ、または成果が期待されるものを対象に、日立環境財団が表彰するもの。12日に東京・大手町の経団連ホールで開催された環境賞授賞式に、会を代表して同技術を開発した石川繁防草研究会会長、矢野明正全国防草ブロック工業会会長が出席した。

受賞技術のテーマは「植物の特性を利用した防草技術」。植物は夏場の成長が早く、歩車道境界ブロックの間から生えた雑草などは草刈しても根が残っている限り成長を続ける。草刈作業は労力、費用とも国や県市町村等の道路管理者の大きな負担となっている。



歩車道境界ブロックタイプの防草ブロック

防草ブロックは植物が本来持つ特性を利用した防草技術で、歩車道境界ブロックに下向きの切り欠けを設けることにより、植物の成長を下向きに誘導することにより雑草を防除する。

昨年からは全国防草ブロック工業会を設立して、全国的な普及に努めている。

総会だより

12年度出荷は16万㌧　Hパイル工業会

會澤祥弘会長

製品メーカー10社で構成する全国Hパイル工業会（会長・會澤祥弘會澤高圧コンクリート社長）は5日、札幌市内のホテルで13年度通常総会を開催し、すべての議案を承認・可決した。任期満了に伴う役員改選では現執行部の再任が承認された。

Hパイルの12年度出荷量は15万9千㌧で前年度実績を8・4％上回った。出荷量はこれまでも右肩上がりで推移してきたが、12年度は住宅着工件数が引き続き堅調だったことに加え、太陽光発電施設の基礎向けに8800㌧（構成比5・5％）の出荷があった。

総会の冒頭、あいさつに立った會澤会長は「当社では今年の春先から生産が需要に追い付かない状況で、施工機械のやりくりにも苦労している。全国的にも同じような状況だろう。現場の状況などについて、早目できめ細かな情報収集に努めることと、ハウスメーカーとの連携を強めることで対応していく必要がある」と述べた。

会長に石﨑氏　SEEE協会

石﨑浩会長

SEEE協会は5日、東京都内で13年度通常総会を開催し、12年度事業報告・決算および13年度事業計画・収支予算案等を審議し、原案通り承認した。役員改選で杉山好信会長が退任し、石﨑浩氏（阪神高速道路技術センター理事長）が会長に就任した。杉山前会長が名誉会長に、災害科学研究所の松井保理事長が顧問にそれぞれ就任した。

石﨑会長は冒頭のあいさつで「かねてからいわれていたインフラの老朽化対策が喫緊の最重要課題となっている。笹子トンネルの事故など思いもよらない災害が発生しており、建設業界全体で技術力を結集して老朽化対策に取り組んでいかなければならないだろう。当協会としても会員各位の高い見識と豊富な知恵を持ち寄り、活動をさかんにしたい」と抱負を述べた。

13年度の主要活動計画は技術講演会や見学会の実施。建築分科会では12年度から継続し、PC海上浮体地盤（メガフロート）の可能性について研究する。メガフロート上に計画する建築物・工作物の建築基準法での取り扱い等について調べ、以前製作されたメガフロートの実情について現地調査を行う。

I類認定品を拡販　PCボックス協会

中西久芳会長

日本PCボックスカルバート製品協会（中西久芳会長）は6日、都内のホテルで第32回定時総会を開催、すべての議案を原案通り承認した。

13年度事業計画では①耐震構造を基本とした新技術・新工法の普及拡大②下水道協会I類認定製品（PC・RCボックスカルバート）、II類認定製品（HTCボックスカルバート）の拡販③長尺PRCボックスカルバートの拡販と新工法の適用④現場打ち大型ボックスカルバートからメガボックスカルバートへの設計変更の推進等を実施する方針だ。

あいさつに立った中西会長は「アベノミクスの成長戦略により経済の先行きに明るい兆しが見え始めたが、当業界はそれが実感できるまでには至っていない。昨年度はボックスカルバートの下水協I類規格化が実現し当協会のPC・RCボックスカルバートとPC縦締め工法、TB工法がいち早くI類規格に認定された。近年は耐震構造など工法の重要性が一段と増しており、今後も工法を含めたI類認定品の拡販に努めていきたい」と述べた。

「創立30周年」に　プレホール工業会

長谷川啓司会長

全国プレホール工業会（長谷川啓司会長、会員22社）は6日、都内のホテルで第30回定時総会を開催、すべての議案を審議・承認した。

懇親会で挨拶に立った長谷川会長は「当協会は1984年に設立し、今年度は『30周年』を迎えることが出来た。現在の懸案事項は伸び悩む需要と低迷する市況の問題だ。下水道予算は3％程度の伸び率で期待感は薄い。また叩き合い、安値受注の状況下で各社とも疲弊している。しかし我々に出来ることは、ユーザーに喜ばれる製品を作り続けていくことだ。その中で競合製品との差別化を図ることが可能となる」と方針を示した上で、「アベノミクスと言われるが、我々の所得が増加していかなければ景気回復とは言えない。そのためにも適正価格での販売が重要である」と話した。

産学連携で普及促進　防草ブロック工業会

矢野明正会長

全国防草ブロック工業会（矢野明正会長）は7日、名古屋市内のホテルで第2回総会を開催、すべての議案を原案通り承認した。

防草ブロックは植物の特性を応用した防草技術。歩車道境界ブロック等の道路用製品の端部に切り欠けを設け、植物の成長を止め、雑草の繁茂を抑制する。

同工業会では、12年度後半からは従来の歩車道境界ブロックタイプに加え、U字側溝タイプを上市して全国的な普及に努めている。

あいさつに立った矢野会長は「12年度の防草ブロック製品の出荷額は当初想定した額に達しなかった。期待していた関東地区の出荷が遅れぎみで推移したことと、当初上期に予定していたU字側溝タイプの上市が下期にずれ込んだためだ。しかし13年度は春先から好調な出荷で推移している」とした上で「当工業会の防草ブロック技術が第40回環境賞の優良賞を受賞した。従来から名古屋大学との共同研究により各種学会などに論文発表してきたが、今後も大学等と産学連携し全国の自治体に防草ブロック技術の有用性をPRして製品の普及拡大を推進したい」と述べた。

総会後の講演会では会員社の舟田詔光坂内セメント工業所社長が「震災後の東北地区の現状」、北野英己名古屋大学生物機能開発利用研究センター教授が「環境問題と防草の科学」についてそれぞれ講演した。

現在の4倍のスピードでコンクリート打設できる新鋭ラインとし、生産性を飛躍的に高めた。

自然乾燥による養生工程では、コンクリートが硬化する際に発する熱を有効利用する。コンクリート打設の生産性が飛躍的に向上するが、乾燥に必要なスペースが4倍となるため、工場内に3000㎡の乾燥用ストックヤードを用意した。

築物の防災・減災化や道路橋や鉄道橋の維持管理、PC鋼材にかかわる最新の技術動向や研究を紹介するとともに、PC工学会の国際化への取り組みを紹介した。講習会は年次事業として41回目を迎え、今年から全国9会場共通の講義に加え、会場ごとに異なる地元の大学研究者を招いて特別講演を実施。2月だった開催月を6月に変更し多ート構造物の丁寧な維持管理が絶対に必要。ソフト・ハードの両面から先進的な技術を取り入れ、世界のモデルになるような維持管理を実施すべきだ」と訴えた。諸外国の都市のインフラ整備事例として台湾の高速道路拡幅工事、米国サンフランシスコのダウンタウンでの鉄道・バスを複合化させたターミナルビル工事、トルコのボスポラス